

## 小矢部商工会

機関名	小矢部商工会		
所在地	富山県小矢部市八和町5-15		
電話番号	0766-67-0756		
地域概要	(1)管内人口 34千人	(2)管内商店街数 3商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 1商店街	(2)会員数 50商店	
	(3)空店舗率 16%	(4)大型店空き店舗数 3店	
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

### 【事業名と実施年度】

平成15年度 コミュニティ施設活用商店街活性化事業(高齢者交流施設)

総事業費

・高齢者等交流拠点の整備・運営  
7,555千円

### 【事業実施内容】

#### 1. 背景

小矢部市は富山県の最西端に位置し、北陸本線や北陸自動車道、能越自動車道、国道8号線が市内を通っており、交通の要衝であることから「県の西の玄関口」としての役割を担ってきた。一方、市の北西から南西にかけてなだらかな丘陵が連なり、市の南から北北東にかけて流れる小矢部川流域一体の平野部は水田単作の穀倉地帯となっている。

小矢部市内の中心市街地では、モータリゼーションの進展による都市間競争の激化・ショッピングセンターや公共施設の郊外化等にもなっかつての賑わいが見られない状況となっており、同時に、小矢部市では人口の減少および高齢化の進展が顕著に見られる。

このような状況を受け、小矢部商工会では平成13年度に「TMO構想」を策定し、中心市街地活性化の一環として商店街の空き店舗を活用した「高齢者街かどサロン」を短期的に開設する等の事業に取り組んできた。

本事業は、高齢者が気軽に立ち寄ることのできる場を開設することで中心商店街が高齢者の日常生活を支えるとともに、商店街に賑わいを創出することを目的に取り組まれた。



小矢部市の位置（小矢部商工会HPより）

## 2. 事業内容

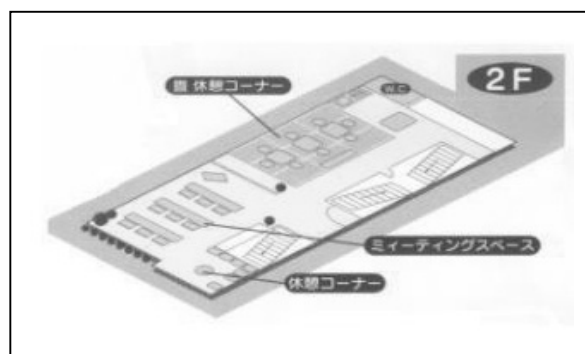
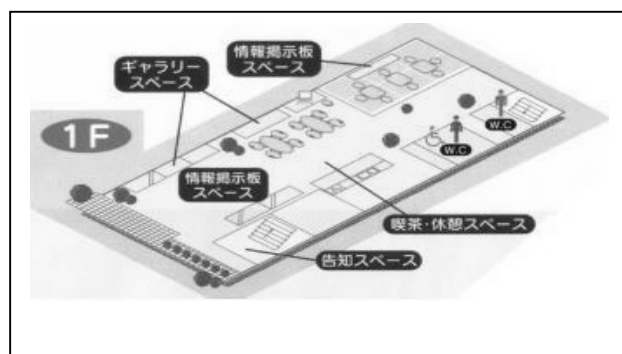
### (1) 事業概要

石動銀座商店街（駅前商店街）の空き店舗を活用して市内の元気な高齢者世代の交流の場を創出するとともに、高齢者の商店街への来街を促すことで商店街の活性化を図った。

- ・施設名 「おやべ街かどサロン ふれあい」
- ・所在地 小矢部市石動町3-2（旧おもちゃ店）
- ・施設概要 1階：20.5坪 2階：19.6坪

	スペース	利用内容
1階	ギャラリースペース 作品展示コーナー 情報掲示板スペース パソコンコーナー 休憩スペース 和室スペース（6畳）	各種展示 インターネット他
2階	多目的スペース（29㎡） 和室スペース（9畳） キッチンルーム（約6㎡）	各種展示 ミーティング 講習会 会議 趣味の会 料理教室 教養講座他

- ・オープン 平成15年11月16日
- ・利用時間 9:30から18:00まで
- ・休館日 毎週月曜日、12月29日から1月3日まで
- ・運営体制 高齢者を中心としたボランティアスタッフが午前、午後それぞれ1名、交代でサロンを運営



「街かどサロンふれあい」の見取り図

### (2) 施設の機能

本サロンは、①買物ついでに気軽に立ち寄れる場所、②買物後にくつろげる場所、③立ち寄ることが楽しく、生きがいとなる場所、という3つの機能を備えており、具体的には

## 小矢部商工会

下記の5事業を行った。

### ①憩いや語らいの場の提供

ボランティアスタッフとの会話を楽しんだり、展示された作品を鑑賞しながらお茶を飲む等のくつろぎの場を提供した。

### ②自己表現の場の提供

ギャラリースペース・作品展示コーナーを設け、高齢者や小学生の作品等の展示を行い、市民ギャラリーとしての場を提供した。

### ③生涯学習の場の提供

趣味の交流サロンとして施設を開放した。また、石動高校商業科の学生を講師として高齢者対象のパソコンセミナーを開催した。

### ④健康保持・増進の場の提供

食生活の改善や健康的な料理に関するパネル、ポスター、パンフレットを設置した。また、毎月第3金曜日に無料健康相談会を開催した。

### ⑤生活の快適さを支援する事業

小矢部市の観光・商店街・商工会のパンフレットを設置して情報提供を行った。また、毎月第3金曜日に無料住宅相談会を開催した。

## (3) PR活動

### ①オープニングイベントの実施

施設のオープンに合わせ、平成15年11月16日からの3日間、オープニングイベントを実施した。石動銀座商店街、地元町内会、ボランティア組織、小矢部市などの積極的な協力を得て実施した結果、多くの人々が施設に来館し、商店街が賑わった。

また、イベントのPRのために、新聞折り込みチラシ10,250枚を配布するとともに、立て看板を30枚用意した。

### ②施設広報活動

市民に施設の存在を知らせるために、新聞折り込みチラシ、パンフレットを作成するとともに、マスコミや「おやべ商工会報」を活用してPR活動を行った。



オープニングイベントの様子

【 効 果 】

1. 商店街の認知度

地元のテレビや新聞などで「街かどサロンふれあい」が数多く紹介されたことで、商店街の認知度が高まった。

2. 商店街の組織

石動商店街の組織の強化が促進されるとともに、商店街で「街かどサロンふれあい」を利用（または意識）した販促活動を展開するようになった。

3. 来街者の行動

買い物帰りなどに街角サロンに立ち寄るお客が増えた。

4. ボランティアの協力

ボランティアスタッフとして 41 名の登録があり、事業協力のための強力な支援体制を整えることができた。このことは、今後「地域住民に親しまれるやさしい商店街づくり」を行っていく上で大きな意義を有している。



「街角かどサロンふれあい」チラシ

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 事業費の確保

事業を継続していくための費用をいかに確保していくかが一番重要な課題である。

2. 人的体制

商店街、ボランティアスタッフ、関係機関等と連携して事業を行うために、人的体制を整えることが大切である。

3. 事業実施のノウハウ

高齢者の関心が高い、健康、介護、教養、趣味といったキーワードを軸にした事業展を行うためのノウハウを確立する必要がある。

4. 子どもの利用増

高齢者と子どもの交流の場を当サロンが提供することで商店街への子どもの来街を促し、商店街活性化のきっかけ作りを行うことが課題であると認識している。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

当施設の場合、利用者から「駐車場・駐輪場がなく不便」との声が寄せられているが、金銭的な負担が大きいこともあり、駐車場・駐輪場を確保することが困難である。事業に取り組むに当たっては、このような一つ一つの問題について事前に商店街と協議し、どのように連携・協力し合えるかを明確にすることが重要である。

【 関 連 U R L 】

小矢部商工会 <http://www.shokoren-toyama.or.jp/~oyabe>